

深浦町立中学校のあり方検討委員会
提 言 書

令和7年9月16日

深浦町立中学校のあり方検討委員会

深浦町教育委員会
教育長 草 創 文 人 殿

令和7年9月16日

深浦町立中学校のあり方検討委員会
委員長 傳 法 尚



町の人口減少に伴い、町の児童生徒数の減少が顕著となっており、小中学校の学級数及び人数の小規模化が進んでいます。これにより、学校における教育環境や生活環境、さらには学校運営など様々な面に影響を及ぼすことが懸念されています。

大戸瀬中学校の生徒数について、今後も減少していくことを踏まえて、生徒にとって望ましい教育環境の充実を図る観点から、大戸瀬中学校のあり方について協議し、今後の方向性を検討するため、各小・中学校PTA役員、大戸瀬地区こども園の保護者代表、町議会議員、地域の学識経験者、22名に委員を委嘱し、令和7年1月24日に町民文化ホールにおいて、第1回検討委員会を開催し、以降、9月2日までの間に計5回の当該検討委員会（うち、1回は書面による協議）を開催しました。

委員による慎重な協議を重ねた結果、深浦町立中学校のあり方検討委員会設置要綱第2条の規定に基づき、これまでの協議内容をまとめ、教育委員会に下記のとおり提言するものです。

結びに、この提言により、未来を担う深浦町の子どもたちが、良好な環境で学習ができるように、より充実した教育環境の向上に繋がることを強く望みます。

1 提言内容

本検討委員会では、大戸瀬中学校のあり方についての保護者アンケートの調査結果を踏まえて、今後の大戸瀬中学校のあり方について「深浦中学校と大戸瀬中学校との統合」、「他市町への大戸瀬中学校の教育事務委託」、「現状維持」の3項目について、メリットやデメリットを検討・協議し、以下のとおり提言します。

(1) 深浦中学校との学校統合

深浦町の児童生徒数は減少傾向にあり、今後もこの傾向が続くと予測されています。特に、大戸瀬中学校の生徒数については、当町の学校規模の目安である単式学級規模である全学年1学級以上、全校生徒数の下限が30人以上に照らした場合、令和8年度には全校生徒数が23人と30人以下となり、令和13年度には19人と20人を下回るため、令和14年度以降は、区域外就学や生徒の転出等があれば複式学級を設置しなければならない状況にあります。

生徒数の減少による中学校の複式学級の設置は、十分な授業効果が期待できず教育の質を低下させる要因となるため、中学校の教育環境に望ましいものではありません。

学校教育においては、人間関係が固定化されず、集団の中で多様な考えに触れ、多様な人間関係を育み、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人一人の資質や能力を伸ばしていくこと、社会性や協調性を育む教育環境づくりを進めることが重要です。

また、教員の負担を軽減し、指導力を向上させつつ働き方改革を進め、教育環境づくりのため一定の教員数の確保に向けて、深浦中学校との学校統合はやむを得ないと考えます。

学校統合を進める上で、保護者アンケート調査結果からも他市町への教育事務の委託、現状維持と意見が分かれているため、保護者や地域等に丁寧に説明し、連携、協議しながら慎重に進めていく必要があると考えます。

学校統合における次の事項について一定の考え方を整理したことから提言します。

- 学校統合については、令和10年度を目途として、2校の代表者（PTA、地域住民、学校職員）で構成される統合準備委員会を設置し、新設統合として、校名、校歌、校章、校訓、制服の有無、体操着、学校行事、部活動、地域交流、各小学校との交流事業などについて協議する。協議結果に基づき、統合計画（案）を策定する。
- スクールバスの通学時間が長くなるため、通学時の安全対策はもとより、生徒への負担を考慮して、スクールバス運行計画を作成する。
- 自然災害の発生に備え、スクールバス通学を含めた生徒の避難場所への誘導や対応について、適切な緊急処置を講じるとともに、大きな災害を想定し、町及び深浦診療所と学校が連携した子どものケアに対応する体制を構築すること。また、災害に強い交通インフラの整備、構築が図れるよう町に強く要望する。
- 深浦中学校の現校舎は昭和49年3月の建設から51年（改修：平成7年）となっており、生徒達が安全で快適に学校生活を過ごせるように、新校舎の建設を計画する。

※参 考

大戸瀬中学校の生徒数の推移

年度	1年生	2年生	3年生	計
令和7年度	7	7	17	31
令和8年度	9	7	7	23
令和9年度	10	9	7	26
令和10年度	9	10	9	28
令和11年度	7	9	10	26
令和12年度	8	7	9	24
令和13年度	4	8	7	19
令和14年度	5	4	8	17
令和15年度	5	5	4	14
令和16年度	4	5	5	14
令和17年度	5	4	5	14
令和18年度	9	5	4	18
令和19年度	2	9	5	16

(2) 他市町への教育事務の委託

青森県内の教育事務委託は、西目屋村が中学校の教育事務を弘前市に委託し、平成27年4月から弘前市立東目屋中学校に西目屋村の中学生が通学しているが、大戸瀬中学校学区の中学校の教育事務を他市町に委託しても生徒数が少ないため、委託される側にとっては、学級数が増えるなどのメリットがない状況にあります。

他市町に教育事務の委託を申し入れしても協議が不調になった場合は、再度、大戸瀬中学校のあり方を検討する必要がある、より切迫した対応を要すると考えます。

現在も大戸瀬中学校学区から部活動等を目的として、鱒ヶ沢中学校に3名が区域外就学で通学しており、今後は、保護者の負担軽減に向けた、生徒の送迎等の支援策を講じる必要があると考えます。

(3) 現状維持

今後、生徒数の減少に伴い複式学級の設置が回避できない状況になっています。

中学校の複式学級の最大の課題とされる点は、教員数の配置数が教頭を含めても5名となるため、教員一人が複数の学年や専門外や免許外の教科を担当することによる授業の質の低下です。

具体的には、異なる学年の生徒に対して、それぞれ適切な指導や支援を行うためには、多様な指導技術や教材準備が求められますが、一人の教員が複数学年や教科を担当する場合、その負担は非常に大きくなり、結果として個々の生徒に対するきめ細やかな指導やフォローアップが難しくなる傾向があります。

また、学習内容や進度管理においても問題点が多く、異なる学年であっても同じクラス内で授業を行うため、進度調整や内容設定が難しくなります。これにより、一部の生徒は理解不足や遅れを感じることになり、そのまま放置されると学習意欲の低下や不登校につながる可能性もあります。

複式学級は、生徒間の交流促進や社会性育成にも影響を及ぼす恐れがあり、高校受験やその先を考えれば中学生に適した教育環境とは言えません。

2 おわりに

当町の児童生徒数は、少子化の影響を受けて年々減少しています。学校規模の縮小により、学校の運営が厳しくなり、今後も教育の質を維持し教育環境を改善するため、新たな方策が求められています。

特に、大戸瀬中学校の再編については、保護者アンケートの調査結果が示すとおり、意見が分かれており、慎重な取組が必要となります。

大戸瀬中学校の再編に関する基本方針（案）の策定にあたっては、統合のスケジュールを明確にし、地域住民や保護者との意見交換を行いながら透明性のあるプロセスを通じて、地域の理解と協力を得ることが必要となります。

中学校の統合により、より多くの生徒が集まることで、教育活動の質が向上し、部活動や特別支援教育の充実が図られ、より多様な教育活動を提供できるようになります。

教育活動の充実を図るため、特に、地域の特性を活かしたカリキュラムや、ICT教育の導入を進めることで、生徒の学びを深めることができます。

また、地域との連携を強化し、教育活動を展開することで、実践的な学びの場を提供することも検討すべきと考えます。

これにより、生徒一人ひとりのニーズに応じた教育が実現できるのではないのでしょうか。

大戸瀬中学校の再編は、地域の教育環境を改善し、未来を見据えた持続可能な教育を実現するための重要な施策です。地域のニーズを反映した教育政策を策定し、地域住民との協力を得ながら進めることで、より良い教育環境を築くことを期待します。

審 議 経 過

平成30年9月26日、平成30年度深浦町総合教育会議において、町立中学校学校統合に係る方針について協議され、各中学校の生徒数の減少が著しいことなどの理由から、大戸瀬中学校も含めた3校での統合も視野に入れた検討を行うよう決定された。

平成30年12月から翌年1月にかけて、管内中学校の統廃合について住民の意向を把握するため、町内3地区において“まちづくり懇談会”を開催し、また、平成31年2月には全町の小中学校児童生徒保護者及び保育園児保護者を対象とした学校統合に係るアンケート調査を実施した。

その結果について、同年4月に町内3地区においてアンケート結果報告会を開催し説明。また、同年7月に深浦町立中学校のあり方検討委員会が設置され、4回に渡る審議を経て、令和元年11月13日に「深浦町立中学校のあり方検討委員会提言書」がとりまとめられた。

令和2年2月5日、深浦町総合教育会議において、その提言書を基にした『深浦町立中学校の統合に係る基本方針』（以下、「基本方針」とする。）が決定された。

基本方針の概要は、『早期の「3校統合」を理想としつつも、深浦中学校と岩崎中学校の2校統合を経て、その後に大戸瀬中学校が加わる「段階的な統合」がより現実的な方策である。』というもので、スケジュールも示された。

令和3年度	岩崎中学校閉校
令和4年度	岩崎中学校・深浦中学校の統合校としてスタート
令和6年度	大戸瀬中学校・深浦中学校の統合に関するアンケート調査を実施 町立中学校のあり方検討委員会を設置・統合の検討
令和8年	統合校に大戸瀬中学校が加わる

令和4年4月、令和元年度の基本方針に基づき、深浦中学校と岩崎中学校が統合し、新深浦中学校がスタートした。

令和6年3月22日、令和5年度深浦町総合教育会議が開催され、基本方針に添った大戸瀬中学校再編の検討を行うよう決定された。

令和6年7月、大戸瀬中学校再編等の方法を、一つ目に深浦中学校との統合、二つ目に他市町への教育事務の委託、三つ目に現状維持に絞り、計3回の事前説明会を経て、大戸瀬中学校学区内の小中学校児童生徒保護者及び保育園児保護者を対象として、保護者アンケート調査を実施した。回答率は67%（配布数75・回収50）。

結果は、回答数が少ないこと、3選択肢とも凡そ3分の1ずつと拮抗していることから、有意な差があるとは言い難いものとなった。

令和7年1月、深浦町立中学校のあり方検討委員会を設置し、以下、5回の検討委員会を開催し、22人の委員で審議したうえで、令和7年9月2日に提言書を作成した。

◆検討委員会開催状況

- 令和7年1月24日（金） 第1回検討委員会
（委嘱状交付、役員選出、経緯説明）
- 令和7年3月 4日（火） 第2回検討委員会
（意見交換）
- 令和7年6月16日（月） 第3回検討委員会
（意見交換－グループ討議－）
- 令和7年7月30日（水） 第4回検討委員会
（提言書（案）検討審議）
- 令和7年9月 2日（火） 第5回検討委員会（書面会議）
（提言書（案）採択）

◆委員からの主な意見

・第2回検討委員会

- (1) この大事な件を9月までのたった4回で提言書を作って出すなんておかしい。2年も3年もかけて説明し、中身を凝縮してから決定していく事項だと思う。
- (2) 深中と統合する上で、一番の懸念は、子どもの病気とか、災害があったとき。五所川原などに仕事に行ってる人は、学校に迎えに来てからまた2時間、3時間かけて子どもを病院に連れで行かなければならない。明日にでも地震が起きた、大豪雨で道路が寸断されたとなると、迎えに行く手段もなくなるし、連絡するホットラインも無くなる。
- (3) 私の考えでは、深浦町で中学校を2つにして、学区そのものを変えればいいと思う。例えば、追良瀬まで大戸瀬中学校にする。
- (4) めぐみ保育園、小学校、大戸瀬中学校に私たち選ばれた委員で、アンケートを取ろうと考えています。
私は統合に関しては反対です。私どもとしては、いろんな意見を取り入れて、全体を見て議論したいと思います。
- (5) 岩崎中学校と深浦中学校の統合は、最初は歓迎と反対の思いが半々でした。自分の子がいる中学2年生は岩崎地区に3人だけ。統合になって20何人かの学年になっています。少ないよりは多い方が良かったと思います。通学の面や両親の勤務先とか心配した点はありましたが、そんなに大きな問題にはなっていない。
子どもたちも、最初のうちはアウェー感がかなりあったようですが、今となってはそれもどこかに行ってしまうと、お互いに岩崎独特の感じ、深浦のカラーを残しながら上手くいっているのかなという気がしています。

- (6) 今、長子が中学校1年、次子が深浦小学校にいます。
長子のときは、別々の小学校から生徒が集まってくるので、やっぱり最初は距離があるんですけど、子どもたちからすれば、友達が増えるのは“うれしい”というのがあって、子どもたちにとって何が一番いいのかっていうのが、統合に関しては大事。学校の統合問題での話し合いは、マイナス意見しか出ないような感じがします。親の方が折れるところは折れて、子どもたちの気持ちを優先して話を進めて行ければいいと思います。
- (7) 学校の生徒が少ないと友達が少ない、競争力がない、統合して学級に20人くらいもいれば、様々な子どもたちがいて自分でどのグループに行きたいか選択肢ができる。今、進学でこれから様々な学校に行くけれども、大中で1番だからと進学して、いざ行ってみれば、レベルがどうか。そういう競争力を付けたい。子どもを第一に考えるのであれば、生徒がある程度多い中で切磋琢磨してほしい。友達を選べるような生活をさせてあげたい。
- (8) 「親が、子どもを迎えに行くのがちょっと大変だ」それが1年に何回あるのか。「大災害くればどうするか。迎えに来るのが大変だ、或いは迎えに行けない」ということが何十年に1回あるかどうか。その何十年かに1回のことを考えて「統合に反対です」って、それはないと思う。第一に子どものことを考えて、今やらなければならないことを早くやってあげるべき。
- (9) 子どもたちは生まれながらにして色んな力、才能を持って生まれて来ている。その才能を深く探って強く引き立てるような、そういった教育環境をつくってあげるのが、大人の仕事というか、一番大事なことなんじゃないか。
大戸瀬中学校の人たちも通学が大変だと思うけど、でも、深浦のこの地形的なことを考えれば、どうしようもないと思うんです。他の市町村も児童減少で通学距離が長くなっている子もいっぱいいると思う。だから、子どもの将来のために環境をつくってあげることが一番大事だと思います。

・第3回検討委員会

- (1) 大戸瀬中学校区の委員が、中学校の参観日の際にPTA会員から状況を聞かれて、説明したそうです。PTA会員の皆さん、今現在どういう進捗なのかわかりにくい状況で、興味があって説明を求められたそうです。
その際には、やっぱり学校までの時間、距離が長いと言うことがネックになっているということです。
- (2) 仮に統合した場合、校歌や制服は新しくなるのか。学校が新しくなるのか。統合するのであれば、新しいことを取り入れることを検討してほしい。
- (3) 統合はいいことだと思う。深中とでも、鯨中とでも。現在の深浦町内に2校という状況はだめだと思います。
- (4) 今在学している子は、部活動、運動会等、思うようにならなかった。統合は必要だと思う。
- (5) 深浦町民としては、やっぱり深浦中学校に来てほしいという思い。
- (6) 風合瀬等で学区を分け、人数が半分になるように今の2つの学校を続けてはどうか。

- (7) 統合することは、メリットの方が多い。
- (8) 12年間同じメンバーで過ごすよりも、人数が多いと何かと選択肢が多くなる。
- (9) 自然災害が起きたときに備えての交通インフラの整備。特に広戸から追良瀬までの道路の部分がネックになる。新しく交通インフラを構築してほしい。それがクリアにできれば、別に統合しても構わないんじゃないか。
- (10) 災害があったときに町が子どもをケアする体制、町と診療所と学校が連携して対応するような体制をつくってほしい。
- (11) どこと統合しても通学距離が長くなる。冬は事故が起きるのではないか。
- (12) 10年、20年先の話を見据え、鯨ヶ沢町、深浦町ともにさらに少子化が進むので、両町で学校を統合するという点についても考慮に入れて、道筋を付けておくということも大事ではないか。
- (13) 深浦中学校の統合については、仕方ない。個性も伸びるし、色んな人との接し方も変わる。だからメリットも大きい。
- (14) これから先のことを考えて統合するのであれば、小中一貫を目指したコミュニティをどんどん広げて、校舎を新築したかたちでものを進めればいい。
- (15) 鯨ヶ沢町が事務委託を拒否した場合、この場合にはどうするのか。また一から考えて再協議するにしても、もうそのときには完全複式ということになるので、そこも考えて今後のあり方を検討した方がよい。
- (16) 深浦町の統合後の中学校を魅力あるものにし、逆に鯨ヶ沢町から事務委託を受けるくらいになってほしい。
- (17) 部活動の関係でどうしても鯨ヶ沢に行く。これは妨げられない。その場合でも、今は保護者に頑張ってもらっている、町で送るような方策があってもいいんじゃないか。

◆深浦町立中学校のあり方検討委員会

- | | | |
|-------|---------|----------------|
| ・委員長 | 傳 法 尚 弘 | 前深浦中学校校長 |
| ・副委員長 | 葛 西 清 | 5区自治会長 |
| ・委員 | 齊 藤 登 | 深浦町議会議長 |
| ・委員 | 岩 根 環 | 総務文教常任委委員 |
| ・委員 | 岩 谷 司 | 産業建設常任委員会委員長 |
| ・委員 | 坂 本 もとみ | 町社会教育委員 |
| ・委員 | 工 藤 清 典 | 町社会福祉協議会事務局長 |
| ・委員 | 神 馬 広 美 | きらら保育園長 |
| ・委員 | 山 内 旭 人 | 深浦小学校PTA会長 |
| ・委員 | 吉 田 徹 夫 | 深浦小学校PTA副会長 |
| ・委員 | 齋 藤 律 男 | 修道小学校PTA会長 |
| ・委員 | 小 野 靖 之 | 修道小学校PTA副会長 |
| ・委員 | 秋 穂 繁 樹 | いわさき小学校PTA会長 |
| ・委員 | 岩 本 邦 憲 | いわさき小学校PTA副会長 |
| ・委員 | 大 谷 尚 哉 | 深浦中学校PTA会長 |
| ・委員 | 小 野 聡 之 | 深浦中学校PTA副会長 |
| ・委員 | 田 中 奈奈子 | 大戸瀬中学校PTA副会長 |
| ・委員 | 長谷川 恒 紀 | 大戸瀬中学校PTA学年委員長 |
| ・委員 | 藤 田 宗 希 | 認定こども園柳田保育園保護者 |
| ・委員 | 福 澤 拓 磨 | 認定こども園柳田保育園保護者 |
| ・委員 | 古 川 元 貴 | めぐみ子ども園保護者 |
| ・委員 | 牧 野 祥 侑 | めぐみ子ども園保護者 |